

季節のやっかいもの3トップを解決！

① 融雪剤

一年中、「勝手にキレイ」になる「フレッシュキーパー」「ECOダイヤ」「EXキーパー」は、雨が降ると、まるで洗ったようにキレイになりますが、「融雪剤」はドア下を汚く汚します。

「融雪剤」は、水に溶ける「岩塩」or「塩カル」なので、高圧水スプレーをよくかけてから洗車をすれば、溶けて取れます。拭き上げはキーパークロスが最適です！

おすすめメニューはこちら！



「下回りクリーニング」洗車+880円

洗車前にB.D.C(BRAKE DUST CLEANER)を下回りによくかけて、高圧水スプレーガンでよくスプレーしてから洗車します。降雪期にはピッタリの洗車です。

② 花粉

Q 花粉の取り方は？

A 表面のざらざらは内窓クリーナーで解決。シミになる前の花粉は、内窓クリーナーをボディにかけてキーパークロスで拭くと、表面の花粉のざらざらを取り除くことができます。



Q 完全に花粉のシミがついてしまったら…

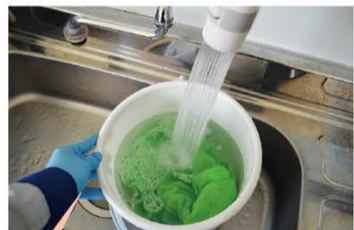
A 50℃のお湯でも取れない場合、ボディにキーパークロスを敷いて、70℃以上の熱いお湯をかけ、10分～15分蒸らし、ボディの温度を上げることによってペクチンを除去します。キレイになったら、乾いたキーパークロスで拭き上げます。



70℃以上のお湯をかけてキーパークロスで拭き取ればすっきり！

Q もし軽いシミになってしまったら…

A 花粉がついて、少し時間が経ってしまい、洗車しても落ちない場合は、50℃程度のお湯にキーパークロスを濡らして絞らずにそのまま拭き取ります。キレイになったら、乾いたキーパークロスで拭き上げます。



厚手のゴム手袋を着用し、火傷に気をつけながら作業してください

バケツにお風呂より少し熱いお湯(50℃くらい)を汲み、キーパークロスを濡します

バケツからキーパークロスを取り出し、絞らずにボディを拭き上げます。キレイになったら乾いたキーパークロスで仕上げます

夏になれば自然と取れる

夏の時期では、陽に焼けたボディは50℃以上、時には70℃を越す場合もあります。すると、お湯をかけたのと同じような効果で、ペクチンが壊れ、花粉のシミが消えてしまいます。だから夏まで待てば自然と取れてしまいます。



③ 黄砂

Q 黄砂かかるとどうしてシミが付くの？

A 黄砂は、シミの原因となるカルシウム化合物(方解石や石膏など)を多く含む混合物でできています。黄砂が乗るだけではシミになることはありませんが、黄砂が雨に濡れるとカルシウム化合物などのミネラル分(無機質)が溶け出し、そのまま放置して乾燥させてしまうとシミ跡が付いてしまいます。



Q 黄砂によるシミ対策は？

A やはり、ミネラル分(無機質)の固着を強力に防ぐ「Wの透明被膜(ガラス被膜+レジン被膜)」のキーパーコーティングが一番の対策です！

※一般的なボディガラスコーティングは、ガラス被膜表面が無機質のため、ミネラル分(無機質)がむしろ固着しやすくなる問題があります。

融雪剤、花粉のシミや黄砂の被害を防ぐには、キーパーコーティングが効果的です！